

# 株式会社日本教育資料

## 「給食指導の悩み」に関する調査報告（2025）

### 【調査の目的と概要】

#### 目的

株式会社日本教育資料では、先生のために給食指導の情報を分かりやすく伝える WEB メディア「きゅうけん | 月刊給食指導研修資料」を運営している。今回の調査では、今の給食指導の問題点や課題点を浮き彫りにするために、幼保施設や学校などで日々給食指導に携わる先生たちに向けて、給食指導に関する悩みに関して重点的に調査。インターネット上で回答者を募り、114 名が回答した。

#### アンケート実施日・実施方法

2025 年 11 月 9 日～11 日 17 日・インターネット調査

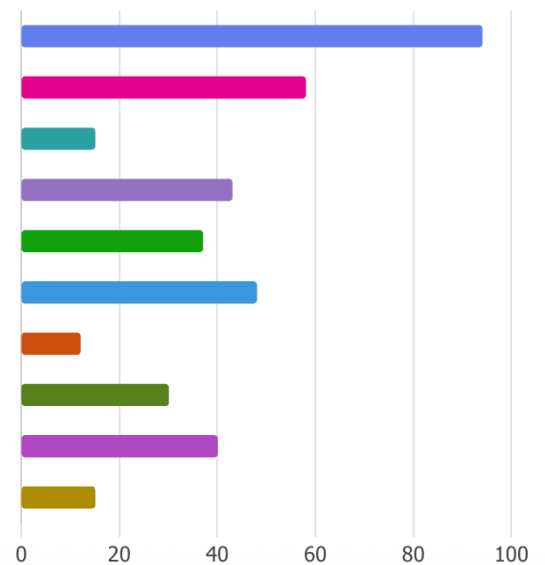
#### 対象者と回答数

「きゅうけん | 月刊給食指導研修資料」の公式メールマガジン・公式 LINE 登録者を母体とする幼保施設、学校に勤務する職員を中心とする 114 名。

## 1-1.「給食指導において苦勞している点について、以下に当てはまるもの【全て】教えてください」に対する回答結果（全体 114 名）

### 回答内訳と人数

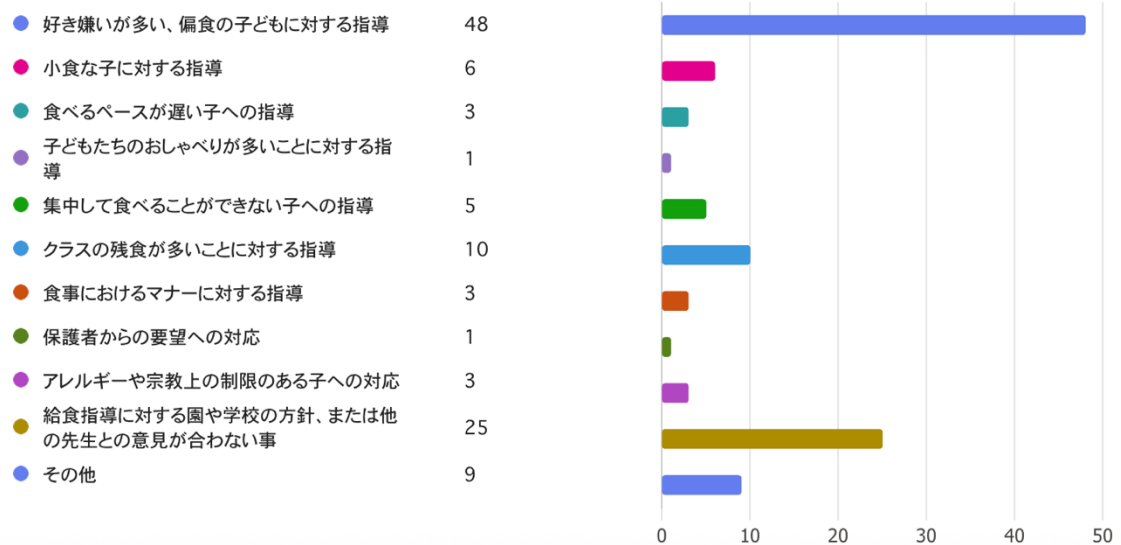
● 好き嫌が多い、偏食の子どもに対する指導	94
● 小食な子に対する指導	58
● 子どもたちのおしゃべりが多いことに対する指導	15
● 集中して食べることができない子への指導	43
● クラスの残食が多いことに対する指導	37
● 食事におけるマナーに対する指導	48
● 保護者からの要望への対応	12
● アレルギーや宗教上の制限のある子への対応	30
● 給食指導に対する園や学校の方針、または他の先生との意見が合わない事	40
● その他	15



## 2-1.「給食指導において1番苦労している点について、以下より

【1つ】教えてください」に対する回答結果（全体 114 名）

### 回答内訳と人数

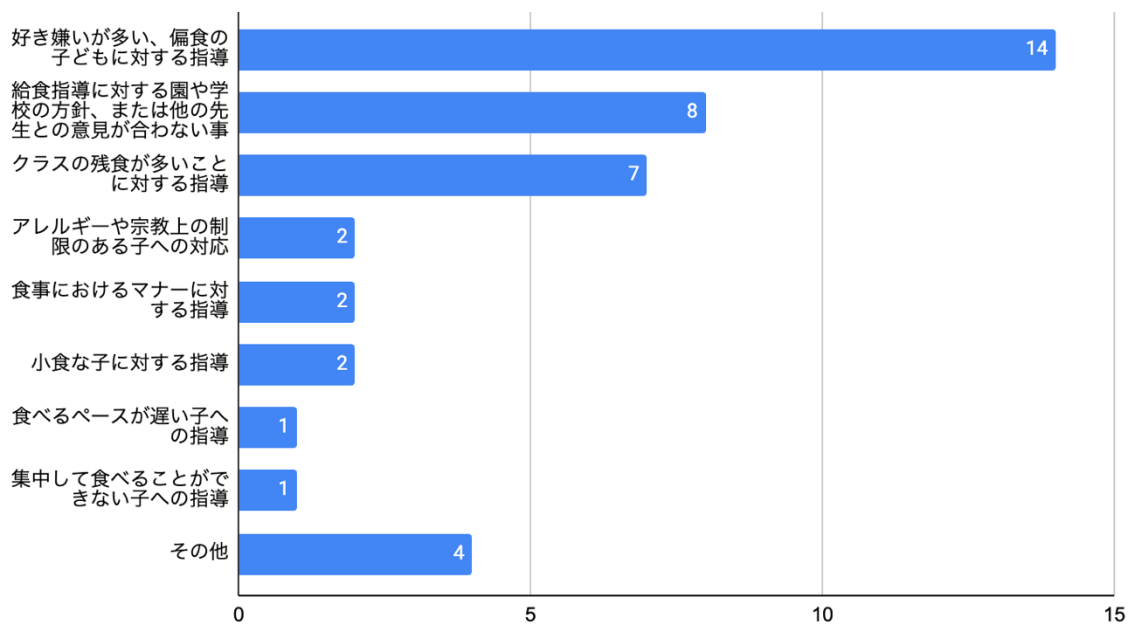


## 2-2-1.「給食指導において1番苦労している点について、以下より

### 【1つ】教えてください」に対する回答結果

(※学校の栄養教諭・学校栄養職員計41名のみで回答抽出)

#### 回答内訳と人数



## 2-2-2.「よければ具体的に苦労している場面や、悩んでいることを教えてください（記述式）」に対する主だった回答

（※学校の栄養教諭・学校栄養職員の回答から抜粋して掲載）

・「栄養的な面、将来への影響、環境の面、作る人の気持ち、多方面からアプローチしても響かない。別に食べなくても困らないというスタンス。」（30

代・女性・栄養教諭）

・「担任によって、給食指導への意欲の差が、子どもたちの食への関心に影響すること」（50代・女性・学校栄養職員）

・「センター方式なこと。先生方とコミュニケーションが取れない。児童生徒の実態がつかめない。児童の特性などを理解した上での声掛けが難しい」（4

0代・女性・学校栄養職員）

・「家庭の方針(無理して食べる必要はない)と学校(色々な食べ物に挑戦して欲しい)のギャップがあると学校での指導はかなり難しいです。」（30代・女性・栄養教諭）他。

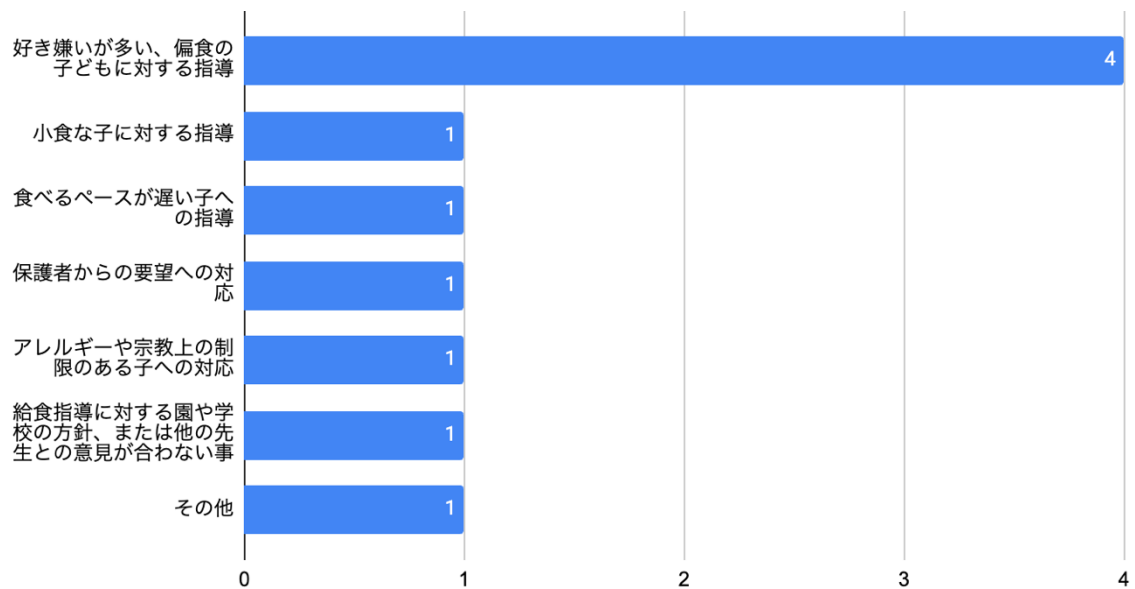
## 2-3-1.「給食指導において1番苦労している点について、以下より

### 【1つ】教えてください」に対する回答結果

(※学校の一般教諭など栄養教諭・栄養教職員以外の計10名のみで回答抽

出)

#### 回答内訳と人数



## 2-3-2. 「よければ具体的に苦労している場面や、悩んでいることを教えてください（記述式）」に対する主だった回答の抜粋

（※学校の一般教諭など栄養教諭・栄養教職員以外の回答から抜粋して掲載）

・「将来のために子どもたちの食を広げたいという思いを強くもつ職員が多い。ただ、食べさせなきゃと一部促しにも熱が入ってきてハラハラすることもある。子どもたちのためにという思いは間違っていないため、思いは大事にしながら望ましい指導についてどう伝えていけばいいか悩んでいる」（40代・男性・特別支援学校教諭）

・「時間内に食べ終わることの大切さをうまく説明できず困っています。5分ごとに声かけをしているのですが食べることができない子どもが4名ほどおり、他にどんな支援ができるかわからず困っています」（20代・女性・一般教諭）

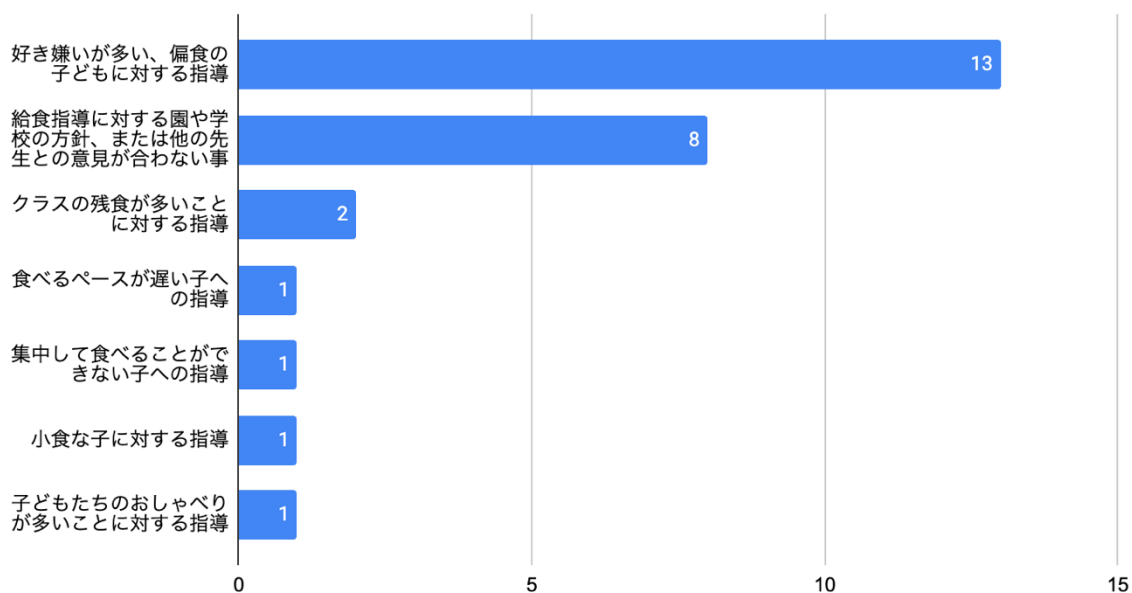
・「自閉症スペクトラムの特性から、食わず嫌いを含めての好き嫌いや、食べ方にこだわりがあり、選り分けて食べるため手づかみ食べになる子への食事のマナーを身につけてるための支援方法」（50代・女性・特別支援学校教諭）

## 2-4-1.「給食指導において1番苦労している点について、以下より

### 【1つ】教えてください」に対する回答結果

(※幼保施設の栄養士・調理員のみの計27名の回答結果)

#### 回答内訳と人数





## 2-4-2. 「よければ具体的に苦労している場面や、悩んでいることを教えてください（記述式）」に対する主だった回答の抜粋

（※幼保施設の保育士など栄養士・調理員のみ回答から抜粋して掲載）

・「園長は、こちらの思うように食育するようと口では言うが、意見を言ったり、給食会議で保育士たちと知識を共有する場を作りたいと言うと渋い顔をされる」（４０代・女性・管理栄養士）

・「食べられる物が少なく、ずっと横について声をかけないと食べられる物でも時間がかかってしまう。上手く声を掛けることができれば食べられるが、発達の特性上食べられるよう誘導するのが難しい」（３０代・女性・調理員）

・「白ご飯しか食べない、カレーや麻婆豆腐丼などのかかっているものも食べない、みそ汁やスープ、うどんの具があるだけで食べないなどのこだわりが強い子が多くなってきた」（４０代・女性・調理員）

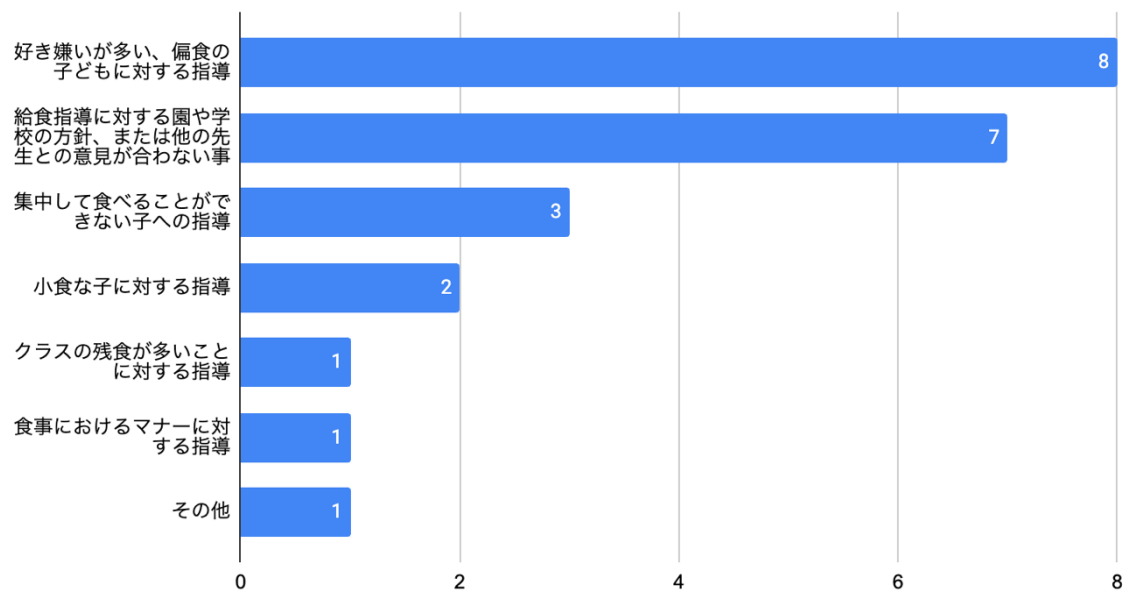
・「ある一定の保育士が昔の指導方法から新しい指導方法に転換出来ずに昔はこうだったからと頑として効かない」（４０代・女性・栄養士）

## 2-5-1.「給食指導において1番苦労している点について、以下より

### 【1つ】教えてください」に対する回答結果

(※保育士や園長など幼保施設の栄養士・調理員以外の計23名の回答結果)

#### 回答内訳と人数



## 2-5-2. 「よければ具体的に苦労している場面や、悩んでいることを教えてください（記述式）」に対する主だった回答の抜粋

（※保育士や園長など幼保施設の栄養士・調理員以外の回答から抜粋し掲載）

・「無理して食べる必要はないと思うが、食べたいと思う工夫は必要だと感じている。それを周囲と協力しておこなう基盤がまだないような気がする」（40代・女性・保育士）

・「家庭で食べているメニューと園で提供している献立とのギャップがあり、給食が進まない点」（40代・男性・園長）

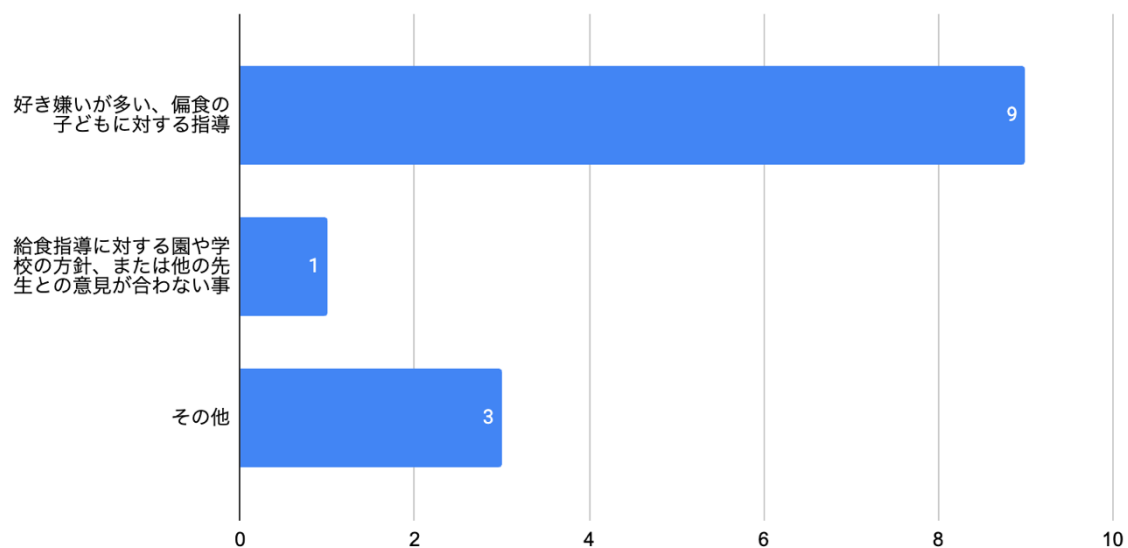
・「好き嫌いや偏食がある子が、「いらない」と言い出すと後2口で完食でも食べないので、終わりにしています。少しでも、食べてもらいたい私の気持ちがあります。でも、子どもの気持ちも大切にしたいです。どんな工夫をすればいいのかわからないです」（50代・女性・保育士）

・「本来なら家で行うべき、しつけやマナーを園に任せる保護者が増えた」（40代・女性・保育教諭）

## 2-6-1. 「給食指導において 1 番苦労している点について、以下より【1つ】教えてください」に対する回答結果

(※児童発達支援施設の職員もしくは分類が難しい職種計 13 名の回答結果)

### 回答内訳と人数



## 2-6-2. 「よければ具体的に苦勞している場面や、悩んでいることを教えてください（記述式）」に対する主だった回答の抜粋

（※児童発達支援所の職員もしくは、分類が難しい職種の回答から抜粋し掲載）

・「他の職員が偏食に対する知識が古く、こちらが学んでアウトプットしても勤務先でなかなか浸透しない。むしろ、周りからはやりすぎと言われる」（40代・女性・療育センター管理栄養士）

・「そもそも食に興味がないごはんしか食べない等のこだわりをどこまで受け止めてどこまで促せばよいのか」（30代・女性・児童発達支援施設保育士）

・「給食を食べてほしいけど、無理もしてほしくないのですが、ただ食事を見ただけの状況になっているような気がして、どう対応すればいいのかわからない時があります」（30代・女性・児童発達支援施設栄養士）

・「食事中に集中出来ず、立ち歩き、こだわり等で進まない」（40代・女性・児童養護施設管理栄養士）

### 3. 調査結果からポイントまとめ

- ・「給食指導において苦勞している点」として「好き嫌が多い、偏食の子どもに対する指導」を挙げる割合が82%以上（114名中94名）となり、多くの職員が苦勞していることがわかった。

- ・「給食指導で1番苦勞していること」では、前回（2022年実施時）と上位回答1位「好き嫌が多い、偏食の子どもに対する指導」、2位「給食指導に対する園や学校の方針、また他の先生との意見が合わない」が同じ結果となった。この上位2つは多くの先生が感じている悩みだということがわかった。

- ・「給食指導で1番苦勞していること」を職種別で抽出した回答では、全ての上位回答1位が「好き嫌が多い、偏食の子どもに対する指導」となり、どの職種でも共通の悩みであることがわかった。

- ・偏食や少食、食べるペース、集中のしづらさなど、子ども自身への直接的な関わりに関する回答が多く見られた。一方で、園や学校の方針、他の先生との考え方の違い、保護者対応といった、子ども以外の要因による悩みも一定数挙げられている。このことから、給食指導の難しさは個々の工夫だけで解決でき

るものではなく、現場全体の体制や共通理解とも深く関係していることがうかがえる。

・これらの結果から、給食指導における課題は「個々の子どもの食行動への対応力」だけでなく、共通理解の形成や方針のすり合わせ、職員間で悩みを共有し合える環境づくりの重要性とも深く関係していることが明らかになった。

・本調査結果をふまえ、今後は一人ひとりの努力に頼る給食指導から、現場全体で支え合い、共有できる給食指導へと視点を広げていくことが重要である。

## 4.調査実施の者情報と問い合わせ先

### 【調査実施と報告書執筆の責任者】

株式会社日本教育資料 代表取締役

「きゅうけん | 月刊給食指導研修資料」 山口健太

### 【運営媒体】

「きゅうけん | 月刊給食指導研修資料」

(運営元：株式会社日本教育資料)

<https://kyushoku.kyo-shi.co.jp/>

きゅうけんでは、毎月給食指導の情報を発信。毎日忙しい先生たちが直感的に理解できる1枚の図解資料が好評です。教育関係者向けの研修の講師依頼も承っており、これまで延べ1万人以上に実施。ご依頼は年々増えています。

### 【問い合わせ先】

本件に対する問い合わせは

mail@kyo-shi.co.jp までメールをお願いします。